学校番号	３０１

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	改訂版　NEXT 数学Ⅰ（数研出版）						
副教材等	改訂版　CONNECT　数学 I+A（数研出版） 改訂版　チャート式　基礎からの数学 I+A（数研出版） 改訂　［数Ⅰ入門ノート］ NEXT　数学Ⅰ入門ノート（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

予習→授業→復習のサイクルの中で，内容についてただ覚えるのでなく，なぜそうなるのかを自ら考えていく過程を大切にしてください。課題を解決する方法を，学んだ知識や経験を基に自ら作り出してください。

復習の家庭学習として問題集を活用します。まずは、解答を見ないで自分で考えてみてください。そして解答を参照し，そこでもただ解法を覚えるのでなく，なぜそうするのかを考えてみてください。それで初めて数学的に問題を解決する力がつきます。

問題集用のノートを用意し，答えだけでなく，途中の式，説明など結論に至る過程を書くようにしてください。それにより，数学的思考力および表現力が身につきます。なお，家庭学習の課題は定期的に提出を求めます。

2　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

a：知識及び技能

数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

b：思考力、判断力、表現力等

命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。

c：学びに向かう力、人間性等

数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・数と式，図形と計量，2次関数，データの分析，図形の性質および場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 ・数学と人間の活動の関係について認識を深めている。	・命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりすることができる。 ・図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。 ・関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察することができる。 ・不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。 ・社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。 ・数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察することができる。	・数学のよさを認識し数学を活用しようしている。 ・粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期中間	第1章 数と式	第1節　式の計算 1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法 3 因数分解 第2節　実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 第3節　1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式	a:数を実数まで拡張する意義を理解し,簡単な無理数の四則演算をすることができる。2次の乗法公式及び因数分解の公式をより深く理解する。不等式の解の意味や不等式の性質について理解し,1次不等式の解を求めることができる。 b:問題を解決する際に,既に学習した計算の方法と関連付けて,式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。不等式の性質をもとに1次不等式を解く方法を考察することができる。日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え,1次不等式を問題解決に活用することができる。 c:事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し,問題解決にそれらを利用しようとしたり,粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,評価・改善したりしようとしている。	確認テスト 定期考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題 定期考査	振り返りシート 問題集課題 ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題
	第2章 集合と命題	1 集合 2 命題と条件 3 命題と証明	a:集合と命題に関する基本的な概念を理解している。 b:集合の考えを用いて論理的に考察し,簡単な命題を証明することができる。 c:事象を集合と論証および場合の数の考えを用いて考察するよさを認識し,問題解決にそれらを利用しようとしたり,粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,評価・改善し			

			たりしようとしている。			
一学期期末 二学期中間	第3章 ２次関数	第1節　2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 第2節　２次関数の値の変化 3 2次関数の最大･最小 4 2次関数の決定 第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとｘ軸の位置関係 7 2次不等式	a:２次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。２次関数の最大値や最小値を求めることができる。２次方程式の解と２次関数のグラフとの関係について理解している。また，２次不等式の解と２次関数のグラフとの関係について理解し，２次関数のグラフを用いて２次不等式の解を求めることができる。 b:２次関数の式とグラフとの関係について，コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。２つの数量の関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。２次関数の式とグラフとの関係について，コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。２つの数量の関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 c:事象を２次関数の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを利用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価･改善したりしようとしてい	確認テスト 定期考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題 定期考査	振り返りｼｰﾄ 問題集課題 ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題

			る。事象を２次関数の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを利用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。			
二学期期末	第４章 図形と計量	第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 第2節 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の活用 7 三角形の面積 8 空間図形への活用	a:三角比の意味と相互関係について理解している。三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し，鋭角の三角比を用いて鈍角の三角比を求める方法を理解している。正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し，三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 b:図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに，定理や公式として導くことができる。図形の構成要素間の関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 c:事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを利用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	確認テスト 定期考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題 定期考査	振り返りシート 問題集課題 ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題
三学期	第５章 データの分析	1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差	a:分散，標準偏差，散布図および相関係数の意味やその用い方を理解している。コンピュータなどの情報機器を用いるなどして，データを表やグラフに整	確認テスト 定期考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題 定期考査	振り返りシート 問題集課題

		5 2つの変量の間の関係 6 データの分析を活用した問題解決 7 仮説検定の考え方	理したり，分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。 b:データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。目的に応じて複数の種類のデータを収集し，適切な統計量のグラフ，手法などを選択して分析を行い，データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。不確実な事象の起こりやすさに着目し，主張の妥当性について，実験を通して判断したり，批判的に考察したりすることができる。 c:事象をデータの分析など数学の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを利用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。			パフォーマンス課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度